

令和6年度上越教育大学 上廣道德教育アカデミー 研修大会

「道德科の意義を考える

—学習指導要領の趣旨を踏まえて—

分科会及びシンポジウムについて

本資料を無断で複製転載転用することを禁止します。



研修大会報告書について



早川 裕隆

上越教育大学大学院学校教育研究科教授
上越教育大学上廣道德教育アカデミー
所長

上越教育大学上廣道德教育アカデミーは、令和6年8月5日に研修大会を、新潟会場と上越会場をオンラインでつないだサテライト方式で開催いたしました。

講師に浅見哲也様、毛内嘉威様をお迎えし、新潟県内外の多くの先生方と道德科の意義について具体的に考える機会となりました。

当日は、基調講演や講話・演習の後、各会場で分科会も行い、参加者の皆様の経験に基づいた道德科への思いや授業を行う上での悩みを語り合い、解決に向けた協議を行いました。

その後行われたシンポジウムでは、シンポジストにより分科会での質問やフロアとの質問への応答が行われました。

その内容が、広く多くの皆様にとっても、共通の疑問や悩みであろうと考え、皆様の道德科の授業づくりの一助になることを願って、その応答の要旨を、掲載することと致しました。

シンポジウム登壇者

コーディネーター



林 泰成

上越教育大学 学長
上越教育大学上廣道徳教育アカデミー
総括監督者

シンポジスト



浅見 哲也

十文字学園女子大学 教授



毛内 嘉威

秋田公立美術大学 理事兼副学長



菅原 友和

上越教育大学上廣道徳教育アカデミー
特任准教授



丸山 大貴

上越教育大学上廣道徳教育アカデミー
特任准教授

【分科会からの報告】

○新潟会場 中学校部会

- 1 発達段階や教材の特質に応じた発問の作り方
発問で意見が拡散したときにどうしたらよいか
収束させるのか、拡散したままでよいのか
- 2 道徳科についてみんなで学ぶ機会をどう作るか
- 3 本音で語り合うためにICTの活用ができないか

○新潟会場 小学校部会

- 1 道徳科と特別活動の関係
道徳科で養った心情を生かせるように特別活動の実践を意図的に
組んでいくことができないか
日常生活に生かせないか
- 2 主体的・対話的な学びをどうやって深い学びにつなげるか
ICTを使って深い学びにつなげる方法
- 3 発問に対する多様な子どもの発言を大切にすると、ねらいに迫れ
ないことがある
発問が子どもの多様な考えを枠に狭めてしまうことがある
- 4 道徳科の意義を同僚に伝えるにはどうしたらよいか

○上越会場 小・中学校部会

- 1 学校生活と関わりをもって自分事として考えさせるための発問
の在り方
- 2 教材の内容が、自分の生活や学校生活とかけ離れているときに、
自分事として考えさせるために発問等をどうしたらよいか
- 3 書かせる場面で、子どもに何を書かせるか（終末の振り返り以外に）

以上3会場からの報告を受け、林コーディネーターの司会の下、テーマごとにシンポジストの考えを伺った。

【シンポジウム】

○発問をどうするか

林

発問をどうするかについて、4名のお考えを伺いたい。

道徳的価値の理解をすること

浅見 哲也 氏

発問を考えるときに大切にしていることは道徳的価値の理解をすること。

人間理解（人間の持つ弱さ、誰もが自然に感じる思い）

→他者理解（様々な価値観を知る）

→価値理解（いろいろな価値観を知ったうえで、「自分は・・・」を考える）

の順で子どもたちが考えていけるように、発問を構成していく。



いろいろな価値観を認めること

毛内 嘉威 氏

発問を考えるときに大切にしているのは、価値観を広げる、いろいろな価値観を認めるということ。間違っただけを言っちゃダメということではなく、どの考えも受け止め、認められるような広い発問が必要と考えている。

問い返しをすることも出てくるが、「なぜ」と聞いていくと、応えられなくなることもあるので、あまり問い返しはしないようにしている。また、小学校低学年では、善を教える。中学校では、批判的に見るということを教え、考えさせることが大事と考えている。

人間理解を大切に

菅原

人物に寄り添うために、人間理解に関する発問を大切に考えている。登場人物が葛藤したり、弱みを見せたりしている部分に触れさせ、そのうえで「なぜ、こういうことができたのか」を聞く。

さらに、問い返しを大事にしている。子どもの発言を受け、「なんでそんなふうに考えたの?」「もう少し詳しく」など、子どもとの対話を通して深いところに迫りたいと考えている。

子どもが感じたこと、考えたことを大切に

丸山

どんなことを考えていたのか、どんな思いだったのかと聞くことが多い。そこにその子の、見たり感じたりしていることや考えていることが出てくると考えている。

中心発問で、「なぜ」「彼を突き動かしたのは何か」「こうしたのはなんでだろう」などと聞くことが多いが、発問の吟味が十分ではなく、追発問を繰り返してしまうことが多いので、さらに洗練したものにしていくことが課題である。

○子どもの価値観の形成について

林

価値観を教え込むのが道徳授業ではないとしても、子どもたちの価値観形成を支援するということが隠れたねらいとしてあるのではないかと考える。そう考えると、授業を評価するとき、道徳的価値の理解とともに、子どもたちにどんな道徳的価値観が養われたのかを、現行の道徳科では評価してはいけないわけだが、そこを評価しないと授業として成立したと言えないような気もするが、どうお考えか。

子どもがどの道徳的価値を大事にしていくか

浅見

道徳の内容項目は価値があるから選定されているわけで、年間指導計画の作成に当たってはすべての内容項目を取り扱わなくてはならない。こうした指導上の留意点には、道徳的価値をしっかりと学ぶという思いも込められているわけだが、子どもたちがどの道徳的価値を大事にしていくかは道徳的価値観の「観」にあたる部分で、それは子どもに任されていると考える。だからと言って、授業のゴールをすべて子ども任せにすればよいのかと言うと、やはり授業にはねらいとするゴールがあるので、明確な意図をもって指導しなければならない。ここに、先生方は難しさを感じるのではないか。

多様な価値観を知ることでアップデートしていく

毛内

発問を通じて、子ども自身の価値観、子どもの背景にある家族の価値観など、多様な価値観を知ることによって、子どもは自分の価値観、考え方をアップデートしていく。そう考えると、互いの違いの意味を認め合う、尊重し合うという姿勢が基本にないといけない。



○分科会の質問への回答

林
シンポジストの皆さん、分科会の質問に答える形でご発言を。

「道徳と他の教育活動とのつながり」「学んだことを特活で実践する場を」という質問について

浅見
道徳科は学校行事を成功させるためにあるのではないが、道徳科の授業の後に関連する教育活動を設けてはいけないということではない。
道徳性は、道徳科で学び、その先にある教育活動でも学び育まれていく。
内容項目の中には、日常生活の中ではなかなか学べないようなものもある。それは、道徳科で補充するということになる。教育活動全体で行われる道徳教育を道徳科は、補充・深化・統合する働きがある。道徳科と様々な教育活動を関連付ける取組は大いに進めていただきたい。

毛内
家庭、地域、学校と連携しながら、道徳教育の場を考えていくことは大事。各学校の重点目標との関わりで、学校教育全体を巻き込んだ道徳教育の在り方を考えてほしい。道徳科は道徳教育の要として、補充・深化・統合する役目がある。特別活動も含め、教育活動全体を通じて、道徳教育でどんな子どもを育てたいのかを明確にして取り組んでいただきたい。

「道徳にどう関心をもってもらえばよいか」という質問について

菅原
これまでに所属してきた学校で実践してきたことや他校の先生が取り組まれていることを紹介する。

- ・学年ごとに自分の学年で使う場面絵を作成、ストックして保存する。
- ・学年の道徳担当を中心に授業を構想し、学年で共有する。
- ・道徳科に関わる書籍や雑誌を学校の予算で購読し回覧して興味関心を喚起する。
- ・各校の道徳主任、推進教師が自校の取組を共有できるような場や機会を設定する。
- ・研修大会も含め、研修会に係る情報を共有したり、紹介したりする。

○フロアからの質問と回答

小学校教員 A

「ICT等を活用して、子ども同士の議論を深める方法は？」



浅見

ICTの活用については、一番の魅力は、全員の考えを見ることができるということ。見る時間を確保して、協働的な学びにつなげるには「誰の考えを聞いてみたいですか」と投げかけたり、全体の傾向を見て、「どんなふうに思いますか」と聞いたりする。端末で、共有したところが深い学びのスタート地点。授業の後半ではなく、真ん中にここをもってくるよう、コーディネートする力が教師には求められる。

中学校教員 B

スライドにあった「道徳的諸価値の理解と自分自身の固有の選択基準、判断基準の形成」という文言についてもっと詳しく知りたい。

浅見

この文言は、平成28年12月の中央教育審議会の答申（これが現行学習指導要領のもとになっている）に示されているものなので、検索していただきたい。

大学教員 C

道徳科の授業を頑張ると学力が伸びると考えている。それを裏付けるデータがあれば教えていただきたい。道徳科の指導と教科の指導との関係性を見出せなくて興味をもたない若い教員が少なくない。

浅見

数値で示されているものを私も見たことがないが、道徳科の目標に示される道徳性の様相を育てるための学習がしっかりなされているところは学力も高い傾向にあるということは、多くの人が感じているところ。それを数値で示すことができればよいと思う。

毛内

秋田を例に出すが、徳知体と、徳を第一に考えて、道徳教育に取り組んでいる。その中学校では、一日の振り返りや道徳の振り返りをしている、教師がコメントを入れて返すことを今でもやっている。

そうすると意欲が高まり、個や集団の道徳性も高まるし、学力も向上している例がある。道徳性が高まることで、最後まで踏ん張り、頑張ることができる。

また、聴く力を高めることに取り組んでいる学校も多く、子ども同士が話し合いを通して、互いの意見を語り合い、どんどん考えを深めていく姿が見られる。

そして、話す、伝える力を鍛えていくことにもつながる。道徳授業や道徳教育に取り組むことは、結果として人間教育となり、学力の向上にもつながると思う。

上越会場

小学校教員 D 自分事としてとらえる工夫はどんなことが考えられるか。



浅見

道徳科では、すべて自我関与、自分事としてとらえることを求めている。教材理解ではなく、自分理解にたどりつかなくてはならない。だからと言って人間理解を意図した発問で、ここでは人間の弱さを表現することが多いので、「あなただったら」と聞いてしまうと、かえって自分のこととして言えなくなってしまうことが考えられる。そこで、登場人物の名前を主語にして発問する。ただ、ずっとその調子で聞いていくと、国語の読み取りのようになってしまう。そこで、道徳的価値を直接問うような発問を入れてみたり、教材文中の登場人物の気持ちが現れているようなキーワードはなるべく入れないで、「どんな気持ちですか」と聞いたり、「そういう気持ちってわかる？」と問い返したりして、自我関与して考えるということを意識して発問を考えている。

毛内

道徳授業が、教材を活用して行っているのには意味がある。浅見先生が言うように「あなただったら」と聞くと、かえって自分のことが言えなくなる。そこで、教材の登場人物を主語にして発問する。道徳的価値にかかわって発問したり、登場人物の気持ちになりきることで、自分の考え、つまり自分事として考えて、言えるようになる。

自分事として考えるようにするには、教材の登場人物を主語にして自我関与させて問うという配慮は必要である。

中学校教員 E 先生方の忌避感情を打ち消すようなスパイスのようなもの、知恵があれば伺いたい。

浅見

中学校の先生方は、特に道徳に関して研修する機会が少ないように見受けられる。読み取り道徳のようになってしまいがちで、生徒もつまらない、教師もやりがいを感じられないと負のスパイラルに陥っているのではないかと感じる。中学校の先生方も定期的な研修会を行うことをお勧めする。そうした中で、道徳授業の楽しさを知っていただくと、いろいろな工夫をされるのが中学校の先生のよいところだなと思う。そういう正のスパイラルを生み出したい。

コーディネーターによる総括

林（総括）

研修成果をうまく活用して広めていただけるとありがたい。

総括に代えて

一つは、共感・自我関与に関して、相手の立場に立って考えたときに自分がどう感じるかという共感もあれば、向こうが自分に重なってきて感じる共感もある。

さらに、膝を打った時に瞬間的に痛いと感じるような痛みの共感など、いろいろな次元の共感があると考えます。道徳科では授業の中で様々な場面で様々な形で活用していると考えます。それがどんなふうに分類できるのかを研究レベルで考えていくのはどうか。

もう一つは、能力開発が中心になっている昨今、学力とは何かを考えていく必要がある。ある学会では教科の在り方を議論していたが、そこでどの教科が重要かという話になったときに、私は家庭科だと考えている。それは、実生活にもろに重なってくるからであり、そんな問題も道徳との絡みで考え始めるとさらに面白いのではと考えている。

